



幼保小連携通信

2019年4月



新潟市では、本市が目指す子どもの姿「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」を実現するための施策の一つとして、官民が一体となった新潟市一貫教育推進協議会^{※1}を組織し、就学前から義務教育修了までの「新潟市にふさわしい一貫教育」を実施するための準備を進めています。「新潟市にふさわしい一貫教育」の目的は、次の三つです。

確かな学力^{※2}の獲得

学校(園)の滑らかな接続

教職員の資質の向上

本紙「幼保小連携通信」では、幼保小連携にかかわる内容についてお伝えします。

※1：新潟市保育会、新潟市私立幼稚園・認定こども園協会、新潟市立幼稚園長会、新潟市立小学校長会、新潟市立中学校長会、新潟市こども未来部保育課、新潟市教育委員会の各代表者で構成

※2：幼児教育では、「かかわる力の基盤づくり」に重点を置きます。

新潟市共通アプローチ・カリキュラム

幼小の滑らかな接続と「かかわる力の基盤づくり」

取組の一つとして、子どもたちの「かかわる力の基盤づくり」に重点を置いた新潟市共通アプローチ・カリキュラムを作成しました。(この通信といっしょにお送りしました)このカリキュラムは、各園の実状に応じて自園化して活用していただくことを念頭に作成しました。

自園化の作業内容は、次の二つです。

- ①新潟市共通アプローチ・カリキュラムを各園の実状に合わせて修正すること
- ②「新潟市の重点」にある3色の要素が自園の指導計画等に盛り込まれているかを確認し、必要があれば盛り込むこと

※参考に自園化に関するQ&A及び西幼稚園のアプローチ・カリキュラム、短期案を添付しました。右の記事と併せてご覧ください。

○新潟市共通アプローチ・カリキュラムの自園化や活用については、2019年度中に5歳児の教育・保育を実施している園の幼児教育・保育関係者を対象とした研修会を実施し、詳細をお伝えする予定です。

一貫教育推進協議会では、2020年度の9月から、市内全ての幼児教育・保育施設で新潟市共通アプローチカリキュラムに沿った実践を実施していただけるよう準備を進めています。

2019年度は、三つの園で、それぞれ自園化したカリキュラムに沿った実践を公開していただきました。西幼稚園の記事では、どのようにカリキュラムを自園化したのかお伝えします。また、愛泉こども園とあじほ保育園の記事では、公開保育当日の様子を中心に伝えします。

西幼稚園での自園化の実際 ~1月25日 公開保育での発表より~

今回の研修会で、『新潟市にふさわしい一貫教育の実現のための幼保小連携を推進する』というねらいに向けて、新潟市共通アプローチ・カリキュラムの自園化の過程について提案させていただきました。

【教育課程の見直し・各内容を3色に分類】

新潟市共通アプローチ・カリキュラムの重点「かかわる力の基盤作り」の3本の柱だてに沿うことは、大変困難でした。幼児教育では、子どもの育ちは様々なことが同時にスパイラルしながら「生きる力」につながっていると捉えているからです。一場面を取り上げてみても、5領域の内容と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」とを同時に配慮するように幼稚園教育要領には示されています。そこで、西幼稚園の教育課程を見直し、新潟市が示す3本の柱だてで、「園児の実態」とそれに対する「援助」とを、3色に分けてみることから取り組みました。

- 新潟市の重点**
- (1) **ピンク**… 互いの思いや考えを共有したり、折り合いを付けたりする。(3協同性 4道徳性・規範意識の芽生え)
 - (2) **緑**… 意思表示ができるとともに、言葉を通して思いを伝え、相手を理解する。(9言葉による伝え合い)
 - (3) **黄色**… 成長を自覚し、小学校生活に期待をもつ。(2自立心 5社会生活との関わり)

ねらい ○ クラスの友達と共通の目的に向かって考えを出し合い、今までの経験を生かしながら充実した園生活を過ごす。

【教育課程 5歳児4期から】

4期のねらいの中に、育みたい資質・能力(=このように育ってほしいという目指す子ども像)として3項目あります。その中の一つを具体例として取り上げます。色分けをする過程で見えてきたことがありました。このねらいは、クラス全体にかかわり、そこにいる子ども一人一人が活かされることであるので、くくりは(1)がベースになると捉えました。その中で、友達と目的に向かう過程の中に、自分の考えや思いを言葉(中には表情や動作もあり)で伝えたり、それを聞いたりして、考えを出し合うので、(2)が重なると捉えました。

【短期指導計画・各内容を3色に分類】

短期指導計画でも教育課程と同じように学級全体としてのベースがあり、その中に個々にかかわる具体的な姿を、3つの柱の「人とのかかわり」はもちろん、5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の内容から子どもを捉えています。また、3学年を通して見てみると、3歳児は全体に(3)の自立を促すことが大半を占めました。4歳児では、(1)が圧倒的に増えます。5歳児では、(1)(2)(3)がまんべんなく織り込まれていますが、5歳児4期には(3)が増加しました。同じように(3)に見えますが、これは、3歳児は「個の自立」であり、5歳児は「集団(社会生活との関わり)の中での自立」です。また、自分の中で折り合いをつけたり、周囲の状況に合わせて行動したりするなど、一人一人が考えて行動できるように、接続期に向かって援助していることが明らかになりました。

【まとめ】

3年間の教育課程を踏まえて、教育課程→(長期指導計画)→短期指導計画→日案・日録→短期指導計画の振り返りへと構造化し、5歳児9月から3月までのアプローチ・カリキュラムの内容を「かかわる力の基礎作り」という観点を働かせ、自園化することができました。

幼稚園教育要領、保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領がスタートして、3つ園種が横につながりました。これらの内容の整合性を図っていくための連携を。小学校とは、「10の姿」を幼児教育から小学校教育へのバトンとして段差の少ない接続のための連携をしていくことを願っています。



遊びの中で育む豊かな学び ～新潟市共通アプローチ・カリキュラムの取組～

2018年11月6日(火) 於 愛泉こども園

愛泉こども園は子どもたちが安心できる環境の中、主体性を発揮し、遊び込む事で育まれる学びと育ちを重視して保育を行っています。

この度、かかわる力の基盤作りに特化した新潟市共通アプローチ・カリキュラムを自園化するに当たり、かかわる力が遊びの中でどのように育まれているのか、園内研修で話し合ってきました。話し合いながら当園の子どもたちの実態と特色を踏まえ新潟市の重点欄の時期や期間を変更しました。そして自園化したアプローチ・カリキュラムの重点欄の子どもたちの姿を実現するために、担任が週1回作成している子どもたちが遊ぶ姿の写真とともに学びを記述した「ドキュメンテーション」という記録を活用してかかわる力の育ちを見取ってきました。

当日は、「遊びの中で育む豊かな学び」というテーマのもと、子どもたちが好きな遊びをしている様子と子どもたちの話し合い活動の様子を公開しました。

かかわる力を育てるために、クラス間や異年齢で交流できる遊び場を設定し、多様な関わり合いから自分の気持ちを調整し折り合いをつけるようになる姿を促す援助をしました。

また、好きな遊びに5、6人のグループが集まって継続的に遊びを発展できるように興味のある道具や環境の再構成を心がけてきました。

子どもたちは主体性を発揮し、もの・こと・ひとと関わりながら生き生きとした表情で遊んでいました。そしてクラスの話合いの時間に遊びの中での疑問や気づきを出し合うことで、次への遊びの楽しみを感じているようでした。

参加された方からは、遊びの振り返りをする事で他の遊びに関心を持ち、人との関わりが促されたのではないかというご意見を頂きました。

今年度から新潟市共通アプローチ・カリキュラムを活用し、かかわる力の経験を意識しながら実践する事で、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に直接的に関連する「協同性」、「言葉による伝え合い」等の育ちを促す事が出来たと思っています。しかし、その他比較的にかかわる力の関連が少ない10の姿の項目についてもしっかりと意識して育ちを促す必要があると感じています。



わくわくする！笑顔いっぱい！遊びで育む心と体 ～かかわる力の基盤づくり:新潟市共通アプローチ・カリキュラムより～

2018年12月5日(水) 於 あじほ保育園

あじほ保育園では、自園化に向けて、まずは職員の理解を深めることから始め、園内研修で新潟市共通アプローチ・カリキュラム(以下アプローチ・カリキュラム)への理解と「育って欲しい10の姿」を学び合いました。その後、現在の年長児の姿を、新潟市が重視している「かかわる力の基盤づくり」という視点から、アプローチ・カリキュラムと照らし合わせていきました。育っているところ、もう少し育てたいところを話し合い、これからどのような活動や遊び、環境構成が必要かという事を考え、そこでの話し合いに基づき、アプローチ・カリキュラムを自園の現状に合わせて修正しました。

人とかかわり
を深められるよう、
異年齢交流
を行っています。



春から、「かかわる力」を育てていこうと異年齢児交流を行ってきた中で、今回の公開保育では「人とかかわって遊ぶ」「主体的に遊ぶ」この2点に重点を置き、子どもたちに働きかけてきました。また、『わくわくする！』この気持ちが大事！という職員みんなの想いもあり、この事も大切にしてきました。年長児が小学校へ招待され、そこでの経験からお店屋さんごっこが盛り上がりつつあったため、自分の好きな場所で好きな遊びができるような環境を作るとともに、遊びに必要なものが主体的に作れるよう素材の設定やコーナー作りを行いました。

子どもたちは、今日はどこで遊ぼうか！と楽しみに登園し友だちと誘い合い、それぞれに行きたいところで好きな遊びを楽しんでいました。来園された方とも触れ合いをもち、笑顔がたくさん見られた一日となりました。

参会された方からは、「小学校との連携があり、自然と小学校生活への期待や意識の高まりが見られた。」「異年齢児との交流を通じ、遊びや生活の中で『かかわる姿』が多く見られた。」「小さい時からの積み重ねが、小学校へとつながっていくと感じた。」など、取組の成果を認めていただくことができました。

自園化したアプローチ・カリキュラムを活用することのメリットとして、その時期の子どもたちの育ちの目安として、アプローチ・カリキュラムを参考にして、活動や遊びなど指導計画に落とし込みやすくなることになりました。ただし、アプローチ・カリキュラムにある子どもたちの姿をその時期に達成すべき目標ととらえ、指導になってしまわないように留意する必要があると思いました。



【お問い合わせ先】新潟市教育委員会教育総務課教育政策室
電話：025-226-3178 FAX：024-226-0401